

阿波の武士 侍ヒストリー

慶長五年（一六〇〇）関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康は、同八年に征夷大將軍に就任し、江戸に幕府を開きました。さらに元和元年（一六一五）には大坂の陣で豊臣家を倒し、全国支配を確実にしました。徳川家は全国の大名と主従関係を結び、徳川家による武士の世が始まりました。

武士とは武芸を習い軍事に携わり、庶民を治めた者をいいます。武士は戦士であるとともに、人々を治める行政官でもあったので、そのあり方は一様ではありませんでした。

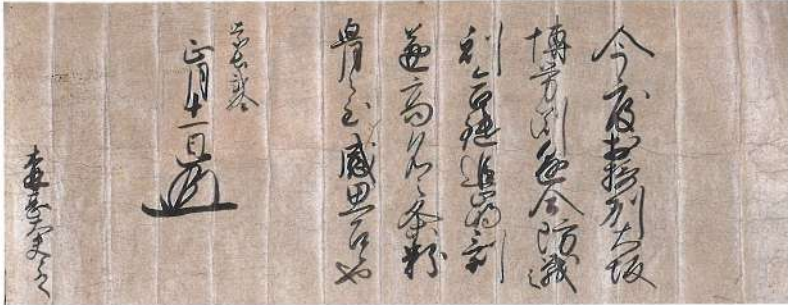
ここでは、大名蜂須賀家や家臣などに関わる資料を通して、多様な面をもつ武士の理解を深め、阿波の歴史を身近なものとしていただければ幸いです。

大坂の陣と蜂須賀家―武の伝統―

大坂冬の陣で手柄のあった七人の藩士には、大御所家康と將軍秀忠から感状が与えられ激賞された。



「徳川家康感状」慶長19年(1614) 森正純氏蔵 森甚大夫宛



「徳川秀忠感状」慶長20年(1615) 森正純氏蔵 森甚大夫宛

能力主義の武士

武藤助左衛門は初め蜂須賀家政に仕えたが、自らをより高く評価してくれる福島正則に主君を変えた。



「福島正則知行宛行状」慶長6年(1601) 当館蔵 武藤助左衛門宛



「蜂須賀家政知行宛行状」慶長2年(1597) 当館蔵 武藤長次郎宛

討入り前日の大石内蔵助の手紙―武士の意地―



「大石内蔵助書状」元禄15年(1702) 個人蔵 三尾裕悟宛

阿波の郡代 高木真蔵の文武

郡代高木真蔵は多くの武術免状を得て武芸百般に通じていた。



「高島流砲術免状」嘉永6年(1853) 個人蔵 高木真蔵宛

武士のくらし

安政元年（一八五四）、黒船来航のため羽田・大森の警備を命じられた徳島藩兵



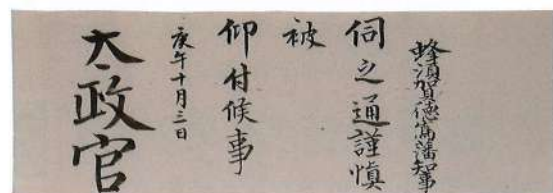
「大森・羽田出陣絵巻」江戸末期 坂崎悦子氏蔵

最後の武士―庚午事変―

庚午事変は分藩独立を求める稲田家臣を本藩の武士が襲撃した事件。阿波・淡路分離の遠因となった騒動。庚午事変の処分として徳島藩知事蜂須賀茂韶は謹慎を命じられた。



「蜂須賀茂韶軍装写真(パネル)」江戸末期 当館蔵



「太政官謹儀申付書」明治3年(1870) 当館蔵 蜂須賀茂韶宛